

No	内容	主なご意見	対応方針
1	第3次府中市環境基本計画の進捗状況について	指標全体の評価方法について、点数をつけるのが悪いわけではないが、その過程を踏まえて評価しないとけないのではないか。	過程を踏まえた議論・評価となるよう、外部要因についての表記を追加いたします。
2		和暦と西暦が混在しているので、表記を西暦に統一した方が良い。	修正いたしました。
3		努力を示す値として、原単位(業務部門で言えば床面積辺り等)を参考値として示してもいいのではないか。	参考資料として原単位となる項目を追加いたします。
4		再生可能エネルギーはどのくらい導入されてきているのかを示して欲しい。	市内の太陽光発電設備導入量及び想定発電量を追加いたします。
5		市としてどういう公共施設に再生可能エネルギーを導入してきたのかを示して欲しい。	市内12の公共施設に太陽光パネルを導入しています。また、令和7年度以降にPPAという手法で学校施設等に太陽光パネルを導入していくことを検討しております。
6		絶対値と相対値、人口動態の母数を踏まえた議論ができるような、そういった記載の仕方も検討して欲しい。	家庭・業務部門における2013年度を100とした場合の各指標の変化を記載しました。
7		人口だけではなく事業体の数などCO2排出の基になる母数を示して欲しい。	府中市の活動量が図れるように、下記項目を追加しました。 ・製造業の製造品出荷額等 ・業務部門の延床面積
8		資料3の9ページの1人当たりの燃やすごみの排出量の単位が間違っている。	修正いたしました。
9		CO2ゼロの電気の契約について、PRも含めて、官民連携で進めていくことが大事。	令和7年度以降、公共施設への再エネ電気の活用について検討してまいります。
10		第3次計画の市の取組として挙げている事業の進捗状況について確認した方が良い。	第2次計画では、指標が多く計画全体の進捗状況が把握しづらくなったことから、第3次計画では指標の数を減らした経緯がございます。その経緯を踏まえ、進捗状況の確認につきましては、指標として掲げている事業についてのみ行っていきたいと考えております。また、進捗状況について確認されたい取組がございましたら、事務局より主管課に確認し、後日ご報告させていただく形で対応していきたいと考えております。
11		資料3の5ページ上段、「生物多様性の価値や現状を理解している市民の割合」について、2021年から2022年にかけて値が急激に増えている。何かの要因で増えているのだとすれば、いつかまた急激に落ちる可能性がある。要因が分析できているのであれば、記載した方が良い。	実績値が急激に増えた要因として、数値を把握するための調査が、市政世論調査から市民意識調査に変更となったこと、それに伴い、調査内の選択肢の択数に変更になったことが考えられます。このことから、実績値を把握している調査について、追加で記載いたしました。
12		資料3の6ページ上段、「東京都レッドリスト(本土部)2020版掲載種の市内確認種数」について、市民団体や公的施設の管理者の調査では、拾いにくい種類がある可能性がある。これについては、分析のうえ、府中市で補完的な調査を計画する等が必要になると思う。	ご指摘のとおり、種類によっては、生息地が局所的かつ生息数も少ない可能性があることから、限られた調査では確認が難しい可能性があると認識しております。市の調査で把握が難しいと考えられる種類については、現状でも国土交通省や東京都北多摩南部建設事務所に生育・生息状況について照会を行うなど、確認に努めているところです。今後も調査結果については分析のうえ、必要に応じて、補完的な調査の実施を検討してまいります。
13		資料3の5ページ下段、「生物多様性や自然環境の保全につながる行動を始めている市民の割合」について、「主な取組内容等」の「アライグマやハクビシンの防除の推進、支援」は関係ないのではないか。	市では、アライグマ、ハクビシンに対する市民からの被害相談に対して、防除のための箱わなの貸出を積極的に実施しております。この取組が、アライグマ、ハクビシンの防除を行う市民の増加につながり、ひいては、地域本来の生物多様性や自然環境の保全につながるものと捉えています。市ではアライグマ、ハクビシンに限らず、侵略的な外来種に対しても適切な情報の発信など、周知・啓発・対応に努めています。このことから、「主な取組内容等」の記載について、「侵略的な外来種に関する適切な情報発信等の周知・啓発・対応」に修正させていただきます。